

第7回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

< フリートーク型 中央地区にお住まいのみなさまと >

対話録概要

と き	令和6年8月16日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで
と ころ	中央北生涯学習プラザ 1階フリースペース
出席者	参加者 15人、市長ほか関係者 8人 計23人

【市長のあいさつ】

お盆休み中の開催にも関わらず、多くの方に集まっていただき感謝している。

自分自身が市長になって7回目の車座集会である。参加者やテーマを特定し開催するものや、公募により可能な限り自由なテーマで開催するものがある。昨年度は前者の手法により4回開催したが、今年度は後者の手法により各地域でも開催していくこととしており、中央地区はその2回目である。本日は皆さんから多様な意見をもらい、市政運営の改善へとつなげていければと思う。

【意見交換】

<参加者>難波の梅小学校区の児童数が減少しており、2クラスや3クラスの学年もある。いじめが起きたときでも、クラス分けも柔軟にできなかったり、入学式や体育大会といった行事の際も人数が少ないことに寂しさを感じる。

<参加者>幼稚園のあるところにはファミリー世帯が集まると思っている。公立幼稚園については、数が少なくなってきたと感じることと、市域の北側が多く、南側が少ないといった偏りを感じる。

<参加者>幼稚園は民間でも良いと思っている。民間幼稚園の中には特色ある教育や利用者ニーズにあった預かりをしてくれるなど良い事例も多くある。

<市長>公立幼稚園は昔、24園あり、現在は9園、令和8年度末には6園に減らしていく方向である。こうした状況には理由があり、まず一つは共働き世帯が増えることにより認可保育園や認定こども園に子どもを預ける家庭が増えてきたことである。もう一つは、公立幼稚園は2年保育であり、4歳、5歳の2年しか預かっていないことである。1歳や2歳から子どもを預けたい家庭が増える中、4歳からしか預かれない公立幼稚園のニーズが薄くなってきている。こうした課題に対しては、私立幼稚園とも協議をしながら、一部の公立幼稚園では3年保育の実施をするなど今後の方向性を就学前教育ビジョンとして策定したところである。

<参加者>幼稚園や保育園が少ない地域にファミリー世帯を呼び込もうとしてもなかなかうまくいかないと思う。

<市長>難波の梅小学校の児童数減少の話もあったが、住宅開発ができる余地がほとんどない。尼崎市は市域面積も狭く、特に南部地域に関して住宅開発を行うには空き家対策が重要になってくる。元々、開発されている南部地域に関しては土地建物の所有者の高齢化が進んでおり、空き家状態になっている箇所も散見される。そのため、時間はかかるかもしれないが、南部市域の有効活用に向けた空き屋対策もしっかり進めていく時代に来ていると考えている。

〈参加者〉新婚世帯向けの住宅取得補助等を導入している自治体もあるが尼崎市はどうか。

〈市長〉尼崎市では今年度から、次世代を担う子育て世帯に選んでもらうための補助制度を開始した。

阪急・阪神沿線の指定区域内において新築購入時は200万円、中古購入時は60万円の補助を行うこととしている。また、県外から尼崎市内の賃貸住宅に住み替えをされたファミリー世帯や託児所、学習塾といった子育て支援施設を開設する際の補助についても制度化を図った。

〈参加者〉阪神沿線のマンションはワンルームばかりである。入居者も長期間住むのではなく、入れ替わりが激しい。阪神沿線はシャッター街も多い、またシングルマザーで子育てをしている家庭もあり、貧困、虐待、地域の担い手などいろんな課題があると感じる。

〈市長〉ワンルームが多いという点については問題意識を持っているが、開発を行うのは民間である点について難しさを感じている。今年度から開始している補助制度は購入や住み替えを検討する側に対しての誘導策であるが、開発側へも規制や緩和を図る中で、ファミリー世帯を多く呼び込めたらと思う。例えば、マンションを作るときには駐車場の付置義務があるが、近年、マイカーを持たない家庭もあるため、駐車台数を少なくすることを了とし、その代わりに間取りを広くすることを求めるなどを検討している。こうした件については、庁内でもいろいろと議論を重ねているところである。また、旧かんなみ新地の跡地に関しては市が買い取りを進めているが、単に売却をした場合はワンルームマンションが建つ可能性がある。私が考えているのは、簡単に売るのではなく、リベルも含めた出屋敷地域の価値が上がるよう、旧かんなみ新地の跡地活用を考えていきたい。

〈参加者〉国道2号線で西宮市から尼崎市に入っても古いスーパーやパチンコ屋、ラブホテルなどが建っている。他都市から尼崎市に入ってくる玄関部分にはもっと魅力的な建物や施設があればと思う。

〈参加者〉ファミリー世帯で転入してきた方々もいずれ高齢化していくため、1つの家族のライフステージといった全体像も考えて施策を推進してもらえればと思う。

〈参加者〉尼崎市は外国籍住民が増えており、外国籍住民の居場所や交流の場を増やすなどもっと多文化共生としてのまちづくりを進めて欲しい。人口の約3%が外国籍住民であり、外国人が地域に溶け込むためにはまずは言葉の壁を取り払う必要があると思う。尼崎市は市主体、民間主体の日本語教室が多くあり、恵まれていると思う。今後益々、外国籍の子どもの増える中で、小学校の放課後日本語教室も今年度からはじまっている。

〈参加者〉外国籍住民でも若い方は日本語習得のスピードが速いが、高齢の方はそうでもない。日本語教室が十分かという物足りなさを感じる。

〈市長〉入管法改正等により子どもが増えることが予想される中、市としても対策を進めていこうとしている。これまでも日本で生活する上でのマナーを啓発したり、外国籍住民向けの窓口を設置するなどしてきたが、今後は特に、就労、教育など生活に密着した分野に関して充実し、外国人にとっても住みやすいまちを目指している。

〈参加者〉尼崎市の図書館には外国語の本がない印象である。外国語の本を置いたり、社会教育の充実、幅を広げることを考えて欲しい。外国語の本があったとしても小説などは難易度が高く感じるし、図書館の利用者そのものが少ないと感じる。プラザでの図書を通じた活動は活性化しているように感じるが、中央図書館は少ない。近くには城や芝生もあるので、もっと活性化策を検討してもらいたい。図書については寄付をもっと募るべきであると思う。

〈市長〉図書館の冊数は少ないことを認識している。図書機能の充実は自分の公約の一つでもあり、一つの建物での図書環境ではなく、プラザや学校における図書もあわせて考え、全体の図書環境の充実を目指していきたい。

〈参加者〉自転車専用道路の整備が進んでいることは認識しているが、路面カラーの整備手法が異なっており、一貫性がないことに関しては何か理由があるのか。

〈市長〉自転車専用道路は、自転車道、自転車専用通行帯、自転車歩行者道など幅員や通行する道路の位置づけによってあえて整備手法を変えている。道路の幅員を広げるなどは簡単ではなく、与えられている環境に応じて整備している。

〈参加者〉市役所内に黄色ではない点字ブロックがあるが、見にくいといった声を聞く。やはり点字ブロックは黄色にすることを検討して欲しい。また、交差点の歩道の延長線に自転車優先となる線が引かれている箇所もある。道路に関しては災害時の避難経路でもあり、しっかりと整備してもらいたい。

〈参加者〉道路と歩道の間の植樹に関して、夏場はかなり伸びている場合があるので、手入れを小まめにしてもらいたい。

〈市長〉道路や植樹の手入れなどは市としても行うが、状態を網羅するには限界がある。こうしたこともあり、「あまレポ」というものを導入しており、市民の方が気づいた道路等の問題点を写真に撮って報告いただくものであり、是非皆さんにも報告について協力をお願いしたい。

以 上